

2021

発行日 毎月1日 通算発行 417号

1



協会報

新春を迎えて『令和3年新年あいさつ』

(一社)石川県建設業協会長 平櫻 保



新春ご挨拶

丑年は語る



国立工芸館（東京国立近代美術館工芸館）＜金沢市＞

2020年に東京から移転・開館した日本で唯一の工芸専門の国立美術館。建物は明治期に建てられた旧陸軍の第九師団司令部庁舎（左）と金沢信行社（右）を移築・活用しており、いずれも国登録有形文化財である。重要無形文化財保持者（人間国宝）や日本芸術院会員の作品約1,400点をはじめ、日本の工芸の歴史を語る上で欠かせない美術工芸作品約1,900点が移転予定である。

“未来”を創り“ふる里”を守る建設産業

発行所 ● 一般社団法人

石川県建設業協会

〒921-8036 金沢市弥生2丁目1番23号
TEL (076) 242-1161(代) FAX (076) 241-9258

URL: <http://www.ishikenkyo.or.jp/>



国立工芸館
(東京国立近代美術館工芸館)
<金沢市>

CONTENTS 1

1	新春を迎えて 『令和3年新年あいさつ』 (一社)石川県建設業協会長 平櫻 保	2
2	新春ご挨拶 石川県知事 谷本正憲 一般社団法人全国建設業協会会長 奥村太加典 厚生労働省石川労働局長 武隈義一 国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所長 近藤勝俊	3 4 5 6
3	丑年は語る 竹腰勇ノ介、田村行利、北川隆明、壁屋俊輔	7
4	今月のトピックス 谷本知事を囲む懇談会の開催	9
5	令和2年度 土木部優良建設工事 知事表彰の紹介 vol.1 株式会社戸田組 令和2年度 農林水産部優良建設工事 知事表彰の紹介 vol.2 株式会社麴香重機建設	12 14
6	雇用改善コーナー 石川県立羽咋工業高校生との意見交換会の開催 石川県立小松工業高校生に対する現場監督体験会並びに企業ガイダンスの開催 金沢市立工業高校生との意見交換会の開催	16 16 17
7	地区協会コーナー たまにみんなで中能登町へ行こう!! (一社)七尾鹿島建設業協会	18
8	会員リレーコーナー 株式会社澤木組	19
9	今月の「輝き!」さん No.70 ほそ川建設株式会社 高尾和希さん	20
10	協会だより (一社)石川県建設業協会・石川県総合建設業協同組合理事会の開催 足立敏之 参議院議員 国政報告会の開催 暴力追放功労団体全国表彰の受賞 委員会の開催 土木委員会 工事現地検討会班長会議(後期)の開催 「石川県土木部との意見交換会」の開催 建築委員会 北陸地方整備局営繕部との建築工事懇談会の開催 土地改良委員会 農林総合事務所への施策提案 建設青年委員会 女性部会 現場見学会の開催 担い手確保・育成等特別委員会 現場見学会の開催(石川県立羽咋工業高校) 建設技術研修所 第3回登録解体工事講習会の開催	21 21 22 22 22 22 22 23 23 24 24 24 25 28
11	石川県土木施工管理技士会だより 第3回役員会の開催	28
12	国土交通省、建設産業人材確保・育成推進協議会 主催 令和2年度「私たちの主張」応募作品の紹介 「建設業の未来について」 株式会社高田組 南 龍斗 「建設業に従事して」 兼六建設株式会社 小林良輔	29 30
13	業界時報 労働災害発生状況 令和2年度 建設工事受注高調(元請)	31 31
14	会員の異動	32
15	県協会からのお知らせ	32
16	地区協会からのお知らせ	33
17	関係機関からのお知らせ 石川県土木部監理課より 石川県建設業サポートデスクへお気軽にご相談下さい!! 石川労働局より 最低賃金改正のお知らせ この冬の休暇は、まったり、ほっこり、ゆったりと。 ～計画的な業務運営や休暇の分散化にも資する「年次有給休暇の計画的付与制度」の導入を!～ 地方共同法人 日本下水道事業団より 入札に参加される予定の事業者様へ ～入札公告情報メール配信サービスを開始します～	34 36 37 37

新春を迎えて

『令和3年新年あいさつ』

(一社)石川県建設業協会長 平櫻 保



令和3年の新しい年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

平素より国、県などの行政機関の方々、建設産業界関係の方々には建設産業の振興にご理解とご協力を頂き、また当協会の活動に対し格別のご高配を賜り心から御礼を申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大により、一時県下で緊急事態宣言が出されましたが、我々地域建設業は、エッセンシャルワーカーとして安全・安心な生活を確保するためインフラの整備・維持に努めてきました。しかし世界中で感染が拡大し、人、モノの動きや経済活動が制限されたことから、景気が大きく後退し、地域でも設備投資をはじめ民間工事の事業中止などの厳しい影響が出始めています。

また、全国各地で自然災害が多発、激甚化し、九州地方を襲った豪雨災害では多くの犠牲者や甚大な被害が発生しました。このため、「骨太の方針」の柱に、国土強靱化対策は「国の重大な責務」であると記されています。一方、国の財政制度等審議会から、「人口減少、維持更新コストの増加が見込まれ、社会資本が概成しつつある中、新規

投資や老朽化の進展に伴う維持更新コストの増加を避ける必要がある。足元で建設需要がひっ迫し、今後労働力確保がさらに困難になる」として、「予算規模の量的拡大よりも優先順位を付けての配分の重点化」を推進すべきとの方向性が示されました。これは地方の実情を理解していないと言わざるを得ません。

今こそ、感染拡大防止や医療体制の充実に加えて、落ち込んだ経済を早急に回復させる必要があります。新型コロナウイルス感染症の拡大により、東京一極集中のリスクが明確となりテレワークによる地方での新たな働き方が注目されたように、東京一極集中ではなく、多核連携型の国づくり(安全安心で豊かな地方づくり)に向け、「防災・減災、国土強靱化対策」等による公共投資を機動的に推進する必要があります。今年度で終了する「防災・減災、国土強靱化のための緊急3ヵ年対策」後も、中長期的な視点にたって今年度補正予算と来年度当初予算を一体的に編成して切れ目のない対策が進められ、強靱な国土づくりが推進され地域経済が活性化し地方創生につながることを切望するものです。

今、建設業を取り巻く環境は大きく変化しています。協会としても、改正労働基準法の施行、新・担い手3法の改正を受け、働き方改革の推進と生産性の向上を両輪として労働環境の改善に取り組んでいます。昨年には、女性職員によるネットワークづくりに向け女性部会「百万石小町『結』」を発足することが出来ました。引き続き、若者や女性にとっても魅力ある産業となれるよう積極的にDXに取り組むとともに、広報力を強化し若年層の入職促進に努めてまいります。我々地域建設業は、地域の安全・安心を守る「地域の守り手」としての使命に加えて、ポストコロナ時代の「地域の作り手」として中心的役割を担っていきたいと考えています。

県協会として、建設業界の発展に向け行政との相互連携・協力のもと、社会インフラの整備と維持管理を通して社会的任務を果たしていく所存であります。国土交通省はじめ発注機関の皆様方より一層の御指導と、全建・各都道府県協会のご支援をお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

新春ご挨拶



『個性、交流、安心が実現する1年に』

石川県知事 谷本 正 憲

新年明けましておめでとうございます。

令和3年の年頭にあたり、県民の皆様にご挨拶を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症により、県政を取り巻く状況が一変した1年となりました。献身的に感染者の治療を行っていただいている医療従事者や関係の皆様方、社会インフラを支えていただいている皆様方に、心より感謝を申し上げます。

感染症対策については、引き続き、医療機関をはじめ関係の皆様方のご協力をいただきながら万全を期してまいります。また、社会経済活動の正常化に向け、企業の事業継続と雇用維持の支援はもとより、新製品の開発や販路開拓などの前向きな取り組みを後押ししてまいります。

一方、昨年、金沢港クルーズターミナルや金沢城公園鼠多門・鼠多門橋、国立工芸館が完成し、縁付金箔製造を含む伝統建築工匠の技がユネスコの無形文化遺産に登録され、本県の魅力や伝統文化に厚みが増しました。

現在は、新型コロナウイルスの影響を受けていますが、これによって本県の勢いが失われた訳ではありません。引き続き、感染症対策に万全を期しながら、今年の夏に開催が予定されている東京オリンピック・パラリンピックや、北陸新幹線の県内全線開業も見据え、陸・海・空の交流基盤の整備、活用をはじめ、産業の競争力強化や、本県の個性の磨き上げ、デジタル化の推進、安全・安心の確保についても着実に取り組んでいく必要があります。

北陸新幹線については、日本海側の大動脈としての役割を最大限発揮するためにも、敦賀・大阪間の令和5年度当初の着工とフル規格による早期全線整備に向けて、引き続き、国に強く働きかけてまいります。

道路網については、県内各地の幹線道路ネットワーク整備を着実に進めてまいります。

金沢港は、新たな賑わいの拠点となっています。貨物、クルーズ、賑わいの機能を最大限発揮するための「分区制度」の導入や国内クルーズの誘致に取り組むなど、更なる飛躍を期してまいります。

小松空港、のと里山空港については、感染状況等を見極めながら利用促進を図ってまいります。

新県立図書館については、令和3年度の建物完成に向け整備を進め、金沢城公園二の丸御殿については、まずは「表向」の復元を目指し、基本方針の策定などを進めてまいります。

国民文化祭については、「県民総参加による石川ならではの国民文化祭」を目指して準備を進めてまいります。

安全・安心の確保については、治水対策などの防災・減災対策や、防災士の育成などの地域防災力の向上などにしっかりと取り組んでまいります。

農林水産業については、他産業のノウハウを活用した生産の効率化や、農林水産物のブランド化により、収益性や付加価値の向上を図ってまいります。

少子化対策については、引き続き、結婚から妊娠・出産、子育てまでの切れ目のない支援の充実を図ってまいります。

教育については、児童生徒の学力・体力の向上に向けた取り組みを進めるとともに、教員の資質向上を図り、教育水準の維持・向上に努めてまいります。

新年を迎え、旧年にも増して県政に対するご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



『令和3年年頭所感』

一般社団法人全国建設業協会会長 奥村 太加典

令和3年の新春を迎え、謹んで年頭の挨拶を申し上げます。

平素は、全建の事業活動に対し格別のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

昨年、年明けから世界的に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症により、わが国の景気は急激に落ち込み、建設業においても民間建設需要の低迷など厳しい影響を受けました。感染の拡大が収束する兆しは未だ見えませんが、落ち込んだ景気を早急に回復させるためには、感染拡大の防止や医療体制の充実に加え、日本経済全体の活性化や強靱な国土づくりに資する公共投資を機動的に推進し、内需の創出とそれによる雇用拡大を図ることが不可欠です。

さらには、昨年も令和2年7月豪雨や台風9号・10号などの大規模災害が発生し、多くの尊い人命や貴重な財産が失われました。わが国の脆弱な国土における防災・危機管理体制の強化と社会資本整備の重要性は更に高まっており、政府による「防災・減災や国土強靱化のための緊急対策」は、今後も人々が安全に安心して暮らしていける持続可能な社会づくりのための予算として、将来的なビジョンを念頭に計画的かつ安定的に確保されることが必要です。

一方、このコロナ禍は、わが国の社会や経済のあり方にも変化をもたらしました。大都市圏への過度な集中による様々な弊害が顕在化し、地方分散型社会への転換について、その必要性が改めて説かれています。地方への移住・定着を進めるには、テレワークの推進だけでは十分とは言えず、地場産業の育成とともに、安心して豊かな暮らしを営むために必要な生活基盤の整備が欠かせません。

私ども地域建設業は、人々の安全・安心を守る「地域の守り手」としての役割に加え、ポスト・コロナの新たな時代においては、いわば「新しい地域の創り手」としての役割も務めていかなければならないと考えております。これらの社会的使命を果たしていくため、引き続き、中長期的な視点から社会資本整備の着実な推進を政府や関係機関などへ広く訴えていくとともに、経営基盤の強化や、担い手の確保・育成、生産性向上、働き方改革など、克服すべき諸課題の解決に積極的に取り組んでまいります。

本年も、全建は47都道府県建設業協会並びに会員企業の皆様方と一体となり、地域建設業発展のため全力で取り組む所存でございますので、ご理解とご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、皆様方の益々のご多幸とご健勝を祈念いたしまして、私の年頭の挨拶とさせていただきます。



『年頭のご挨拶』

厚生労働省石川労働局長 武隈 義一

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

石川県建設業協会の皆様方には、日頃から石川労働局の行政運営につきまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、県内の有効求人倍率が、オイルショック以来の急激な低下となり、1倍を超えておりますが、これまでに経験のない状況となりました。

引き続き、雇用の動向を注視する必要があると判断しております。

このような状況の中、まず第一に、県内企業の皆様において雇用を維持・確保して頂くために、雇用調整助成金の迅速支給など各種支援策に積極的に取り組んでまいります。

次に、人口減少社会を見据えた「働き方改革」の推進です。働き方改革関連法が順次施行され、令和3年度からは、いわゆる同一労働同一賃金が中小企業にも適用されますが、コロナ禍への対応も含め、働きやすい職場の実現が人材の確保・定着、ひいては企業の成長に結びつくという好循環を県全体で広げたいと考えています。

さて、県内の休業4日以上労働災害については、昨年11月末の速報値で969人(前年同期比47人、5.1%の増加)、労働災害で亡くなられた方は8名(前年同期に同じ)となっており、第13次労働災害防止計画(平成30年～令和4年)の目標達成には、計画4年目となる本年が正念場となります。

これらの状況を踏まえ、石川労働局においてはさらなる労働災害の減少を図るため、昨年12月1日から本年2月末まで「冬季無災害運動」を展開しており、転倒災害などの労働災害防止対策の取組を進めております。

また、働く高齢者が増え、職場における高年齢労働者の労働災害の割合が高まっていることから、昨年3月に公表されました「高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン」(エイジフレンドリーガイドライン)に基づき、高年齢労働者が安心・安全に働ける職場環境づくりの取組が促進されますよう、その周知や支援・対策に引き続き、取り組んでまいります。

そのほか、若者・就職氷河期世代の就労支援、女性・高年齢者の活躍促進、障害者の就労支援及び人材育成の強化にも取り組んでまいります。

これらの施策の推進に当たっては、地方公共団体・関係機関・団体とも緊密に連携し、地域に密着し、地域の課題に的確に対応した行政運営を図ってまいります。

結びに、貴会の益々のご発展と会員の皆様のご活躍・ご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



『年頭のご挨拶』

国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所長 近藤 勝俊

あけましておめでとうございます。謹んで新年のごあいさつを申し上げます。みなさまにおかれましては、昨年も金沢河川国道事務所の事業推進にご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

北陸地方整備局では、地域が持つ資源を活かし、新たな交流機会の拡大により魅力ある地域づくりに取り組んでおります。また、その個性ある地域が互いに連携することを支援しています。

石川県は、厳しい自然条件と向き合い、この地で培われた独自の伝統・文化とともに、個性豊かな地域を形成し発展してきました。私は、この魅力ある地域をさらに充実させて、住む人々の満足度を高め、優れた点を国内外に発信することによってさらに多くの人々を惹きつけることができると考えます。現在はコロナ禍のため、人の往来は控えられることが多いですが、コロナ克服後に交流人口や経済交流の回復・拡大が図られるものと信じております。

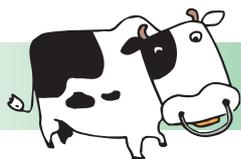
治水事業では、気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、河川の流域のあらゆる関係者が協力して流域全体で行う治水対策、「流域治水」へ転換し集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域としてとらえ、地域の特性に応じた対策をハード・ソフト一体で多層的に進めることとしています。手取川の河川整備計画では、西川・熊田川の支川合流点処理として樋門の設置を位置付けておりましたが、今年度より事業化され、現在、用地調査を実施しています。現在事業進捗中の梯川とあわせて、今後も県等の関係機関と協議をしながら事業を進めて参ります。

道路事業では、昨年、国道8号海側幹線（今町～鞍月）が事業化されております。災害に強い国土幹線道路ネットワークの構築を進め、防災・減災、国土強靱化に向けた県内の道路インフラの整備を着実に進めて参りたいと思います。

また、先日も大雪がありましたが、これから春にかけての時期、大雪に備え、関係機関と連携しながら除雪体制を確保し、地域のライフラインとなる幹線国道の交通確保に努めてまいります。

国土交通省の治水事業と道路事業を担当する石川県内で唯一の総合直轄事務所として、地域の安全・安心の確保や地域の活力のために尽力してまいります。本年も微力ながら石川県の発展に寄与できるよう努力して参りますので、みなさまにおかれましてもぜひともご協力をお願いいたします。

最後になりますが、みなさまのますますのご発展とご健勝・ご活躍をお祈りし、年頭のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



丑年は語る



竹腰勇ノ介 (昭和24年2月7日生)

株式会社北都組 代表取締役社長

新年あけましておめでとうございます。今年、6回目の年男を迎えました。去年はコロナ禍で世の中の普通がすべて普通じゃなくなる年でした。過去には、ペストやコレラなど感染症が猛威を振るう時代もありましたが、まさか自分の生きているうちにこのような経験をするとは思ってもいませんでした。ワクチン接種や、治療薬開発で、早く元の日常生活に戻ることを願うばかりです。さて、丑年生まれの性格はのんびりしていてマイペースで、でも頑固で、これまでを振りかえればなるほどと思い、また、反省する点も多くあります。この業界に入ってやがて10数年が過ぎますが、協会の皆様には親しくお付き合いいただき、また、多くのことをお教えいただき有難うございます。今年も是非とも宜しく願いすると共に、皆様にとって良い年になりますことを心よりお祈り申し上げます。



田村行利 (昭和36年3月6日生)

株式会社田村工業 代表取締役社長

新年明けましておめでとうございます。去年は、祭礼や多くの会合が中止され、昼も夜も自粛モードが漂う息苦しいコロナ禍の中、「屋外で、しかも少人数でできるゴルフならよかろう。」ということで、ホームグラウンドの「能登島ゴルフ&カントリークラブ」をベースにストレスの解消に努めておりました。三歩進んで二歩下がる、時には四歩も下がることもあり一向に上達しませんでした。還暦を迎える本年こそは「趣味は？」と聞かれて「ゴルフです。」と答えられるようになりたいものだと思っています。



ゴルフができるのも皆様のお支えがあってこそ。当社は今年創業55年を迎えますが、これからも皆様のご指導をいただきながら精進していく所存でございますので何卒よろしくお願い申し上げます。

北川隆明 (昭和48年7月3日生)

北川ヒューテック株式会社 代表取締役社長

明けましておめでとうございます。

原稿を書いている時点でもまだ新型コロナウイルスは衰えを知りません。ワクチンが接種され始めたとの報道もありましたが、全世界に供給され一日でも早く平和な日常を取り戻せることを願っております。

さて、今年は果たしてどんな一年になるのだろうか？

ワクワクしてなりません、とにかくまずは健康第一にやっていきたいと思っています。

ヘルニアになったり血液の数値が悪くなったりと年相応の身体になってきましたが、若さを取り戻すつもりでもう一度身体を鍛え直します。

現在、県並びに北陸の青年委員長の任を仰せつかっています。昨年は女性部会も発会されました。建設業界の発展に少しでも寄与できるよう、変化を恐れず何事も前向きにとらえ精一杯やっていく所存であります。

今年も宜しくお祝い申し上げますとともに、皆様方のご繁栄を心より祈念申し上げます。

**壁屋俊輔** (昭和60年10月7日生)

壁屋建設株式会社 代表取締役社長

新年あけましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、社会的に新しい生活様式に変化していく中で、弊社も“密を避ける”“直接的な面会を減らす”などの感染症対策に配慮しながら試行錯誤の一年となりました。

プライベートでも家族で街中に遊びに行くことや遠方へ旅行に行く機会が減り、代わりに自然豊かな能登の地でキャンプなどのアウトドアライフが増えるなど、生活の変化がありました。

しかし、人と人がつながる機会が減少しても、毎年のように全国的に発生する災害から人々の暮らしを守ることが我々建設業界の責務であることは変わりません。

引き続き、弊社の経営基本方針である“地域との調和を図りつつ豊かな人間社会創りに貢献する”事の実現のため、社会状況が変化をしていく中、その変化に適応しつつ、これからも日々の業務に邁進していく所存です。

まだまだ未熟者の私ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

本年も皆様方にとって良い一年となりますよう心よりご祈念申し上げます。



◆ 今月のトピックス ◆

谷本知事を囲む懇談会の開催

(一社)石川県建設業協会(会長 平櫻 保)は、12月22日(火)午後3時30分から、ホテル日航金沢において谷本知事を囲む懇談会を開催した。懇談会には、県側から谷本正憲知事、城ヶ崎正人土木部長、鈴木 穰技監、畝本秀一参与、寺西義行土木部監理課長、協会側から平櫻会長以下県・地区協会の役員60名が出席した。

懇談会に先立ち、県建設業協会が、新県立図書館に建設関係専門図書を毎年10種類寄贈する旨の目録が、平櫻会長から谷本知事に手渡された。

懇談会では、冒頭、平櫻会長が「毎年度の当初予算、補正予算において公共工事の事業費を積極的に確保して頂き感謝申し上げます。コロナ禍にあって、建設業界では今のところ極端な落ち込みは見られないが、建築に関しては、大きな落ち込みを予測する調査もあり心配している。業界の喫緊の課題である働き方改革を進めるために重要な発注の平準化にも配慮いただいているが、県内各自治体にも浸透されるようお願いしたい。」と挨拶、続いて谷本知事が「公共事業は県民の安全・安心につながり、交流基盤を整備することで地域の活性化にもつながるのでしっかり進めていきたい。国の国土強靱化5か年計画が定められ、県が進めている河川の堆積土砂の撤去も正当な治水対策として評価されることになった。新型コロナウイルスの雲が晴れることを期待し、その時に備えて様々な準備をしておくことが大事である。」と挨拶した。

懇談会は、協会側を代表し山岸 勇専務理事が要望書に基づき、公共事業予算の継続的・安定的な確保、防災・減災、国土強靱化対策(予防保全対策を含む)の着実な推進、地元建設業者の受注機会の確保など8項目について要望を行ったほか、各地区の協会長が地域の重点的な要望事項について説明を行い、知事及び土木部幹部がこれに答える形で進められた。要望に対し県側から、一般競争入札における提出書類(申請書、技術資料等)の簡素化については、令和3年1月からの実施に向け鋭意取り組んでいる旨の回答を頂いた。鶴山庄市副会長の挨拶で閉会した。県協会、地区協会の要望事項は次頁のとおり。



谷本知事に目録を手渡す平櫻会長



谷本知事挨拶



懇談会会場

○石川県建設業協会の要望書

要 望 書

平素より本県建設産業の振興発展に格段のご理解ご尽力を頂くとともに、当協会に対しご指導ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

本県の公共投資については、実質当初予算として1千2百億円を超える事業費に加え、補正予算にも積極的に公共事業を確保していただきました。心より敬意と感謝を申し上げます。今後、北陸新幹線の県内全線開業を見据えた道路、港湾などの交流基盤や、安全・安心を確保するための防災・減災基盤などが積極的に整備推進されることを期待しております。

また、設計労務単価の8年連続の引き上げをはじめ、品確法運用指針の指導・徹底により着実に入札・契約制度の改善が図られてまいりました。県ご当局のご高配とご尽力に改めて感謝申し上げます。

さて、地域建設業は、社会資本整備の担い手であるとともに、地域経済や雇用を下支えし、災害や除雪など、県民の安全・安心の確保を担う「地域の守り手」として大変重要な役割を果たしています。今年も、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、公共工事は社会安定の維持の観点から継続される事業として、県民生活への貢献拡大という役割が求められました。

全国的に自然災害が激甚化、頻発化する中であって、防災・減災、国土強靱化対策、道路や橋梁などインフラ老朽化対策の推進など、地域建設業の果たす役割はこれまで以上に大きくなっています。「地域の守り手」としての使命に加えて、ポストコロナ時代においては、新しい地域のづくり手としても中心的な役割を果たしていかなければなりません。

今、働き方改革と生産性の向上が建設産業界の喫緊の課題となっています。県協会としても、若者から選択される職場づくりに向けて、就労環境の改善やICTの導入・推進などに鋭意取り組んでいるところです。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い景気が後退している中、景気浮揚の観点からも公共投資による内需の創出と雇用の確保が期待されております。

引き続き、公共事業予算の持続的・安定的な確保、工

事ごとに適正な利益が確保できる入札・契約制度の更なる改善に向け、格段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 公共事業予算の持続的・安定的な確保
2. 防災・減災、国土強靱化対策（予防保全対策を含む）の着実な推進
3. 地元建設業者の受注機会の確保
4. 改正担い手3法に基づいた適正な入札・契約制度の実施
 - (1) 予定価格の適正な設定と適時・適切な設計変更
 - (2) 発注・施工時期の平準化と適切な工期設定
 - (3) 最低制限価格の上限撤廃と更なる引き上げ
 - (4) 書類（入札・契約、工事）の簡素化・合理化と業務の効率化
5. 安心して災害活動を行うための災害協定の見直し
6. 週休2日制の導入に向けた環境整備
7. ICT活用工事を推進するための取り組みの充実
8. 除雪体制を維持するための支援拡充

令和2年12月22日

石川県知事

谷 本 正 憲 殿

一般社団法人 石川県建設業協会
会 長 平 櫻 保

○地区協会要望事項一覧

【金沢建設業協会】

建設業における働き方改革、生産性向上への支援
地元企業の育成・支援
災害発生時の通信連絡手段
建設発生土の再利用の促進による循環型社会の形成

【加賀建設業協会】

国道8号加賀拡幅工事及び福井県境部の整備促進について
大聖寺・加賀温泉駅間道路（大聖寺道路）の整備促進について
南加賀道路の整備促進及び加賀インター線の冬期交通

の安全確保について

動橋川河川改修事業及び柴山潟周辺片山津温泉地域の浸水対策事業の整備促進について

二級河川の適正な維持管理について

主要地方道小松山中線の整備促進について

国道360号（飛騨地域～小松空港間）の早期事業化について

【小松能美建設業協会】

梯川河川改修の整備促進について

国道305号の早期4車線化と右折専用レーンの改良について

木場潟公園東園地の整備促進について

金沢港と南加賀地域を結ぶ海岸沿いの「加賀海浜産業道路」の整備促進について

能美東西連絡道路の整備促進について

川北縦貫道路の整備促進について

国道416号の安全性確保のための整備促進について

国道360号（飛騨地域～小松空港間）の早期事業化について

【白山野々市建設業協会】

地域振興と暮らしを支える社会資本整備の促進について
安全・安心の確保に向けた防災基盤の充実について

【河北郡市土建協同組合】

「かほく東西幹線道路」の延伸工事について

「消雪設備の延伸」促進について

イ 主要地方道松任宇ノ気線（内灘町西荒屋地内）

ロ 主要地方道高松津幡線（津幡町加茂地内～JR本津幡踏切）

ハ 主要地方道高松津幡線（津幡町北中条地内～加賀爪交差点）

「一般県道高松・内灘線」（かほく市遠塚～松浜地内まで）の「歩道整備」促進について

「一般県道中尾津幡線」に係る交差点の安全安心に向けた取組みのご検討について（津幡町浅田交差点）

老朽化した「河川の護岸補修工事」について

イ 「かほく市内二級河川」（大海川、宇ノ気川等）

ロ 「二級河川河北潟西部承水路」

「二級河川能瀬川の河川改修」の早期着手について（津幡町上矢田地内～中山地内まで）

「（宇ノ気、内灘～高松七塚海岸）の浸食対策」について

「一般県道高松・内灘線」の「部分的道路改良等」のご検討について

イ（かほく市松浜～木津地内まで）

ロ（内灘町室地内～西荒屋地内）

【羽咋郡市建設業協会】

「のと里山海道」4車線化の整備促進

国道249号直海荒屋道路2期区間（豊後名～荒屋）の整備促進

国道415号（宝達志水町杉野屋～羽咋市神子原町県境）改築工事の整備促進と新規事業化

押水羽咋千里浜海岸（千里浜海岸）及び増穂浦海岸の浸食対策工事の整備促進

二級河川宝達川の改修及び新規事業化

【七尾鹿島建設業協会】

道路整備の促進について

河川改修及び砂防事業の促進について

七尾港の整備促進について

【鳳輪建設業協会】

広域交流幹線軸道路網の整備促進について

地域振興と暮らしを支える道路整備の促進について

砂防・地すべり・急傾斜地崩壊対策事業の整備促進について

港湾・漁港の整備促進について

二級河川の適正な整備と維持管理について

越波対策並びに海岸浸食対策について

【珠洲建設業協会】

地域振興と暮らしを支える道路整備の促進について

河川改修と海岸保全施設の整備促進について

津波対策の支援について

令和2年度 土木部優良建設工事 知事表彰の紹介

vol.1

施工企業名：株式会社戸田組

■工事名 30災203号 主要地方道 七尾能登島公園線 道路災害復旧工事

■工事分野 道路改良工事

■施工場所 七尾市能登島半浦町 地内

■工事概要

復旧延長 L=55.0m (w=7.5m)

土工 V=7,970m³ 補強土壁工(H=6.8m) L=34.8m

法面工 A=1,030m² 排水工 L=236m

舗装工 A=17m² ガードレール工 L=27m

仮設工(鋼矢板Ⅲ型L=9.5m~10.5m) N=68枚

■工期 平成30年11月9日~令和元年6月28日

■推薦理由

当該工事は、平成30年8月の大雨により被災した道路災害復旧工事である。

本路線は七尾市街地と能登島をつなぐ重要なアクセス道路であるが、当初計画では5月の大型連休中の片側交互通行解除が困難であった。そのため県との協議を密にし、盛土の暫定施工等を迅速に行うことで、連休前に規制を解除し、観光客等への影響を最小限に留めた。

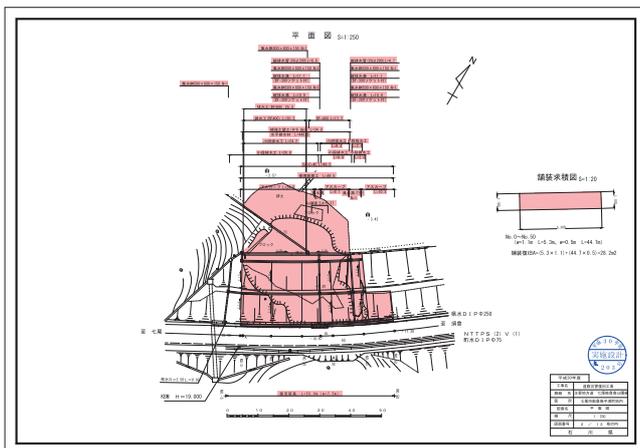
また、被災原因である表面水や地下水について、施工中の排水処理(仮排水路・ドレーン)を徹底することにより、掘削時の法面安定を確保したことや、セメント改良では自走式改良機・掘削ではスーパーロングアーム仕様機を採用したことで、作業の効率化と法面の品質向上に努めた。



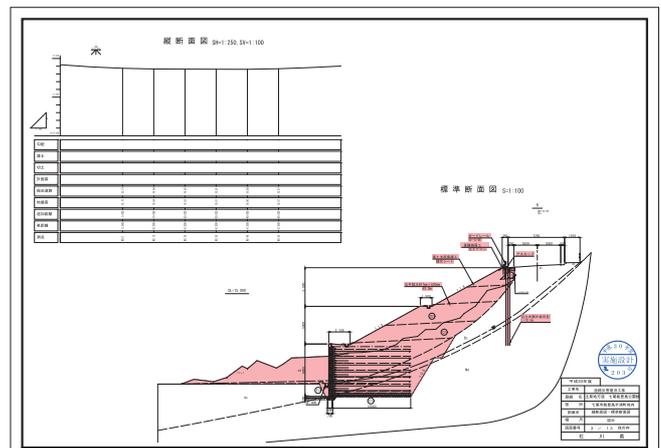
完成 (計画平面図アングル)



本工事現場と能登島大橋



計画平面図



標準断面図



スーパーロングアーム仕様機



路面排水処理



自走式改良機（リテラ）

■現場代理人のコメント



現場代理人
山口章吾氏

この度は、土木部優良建設工事知事表彰を頂き、大変光栄に思います。

これも担当監督員及び中能登土木事務所維持管理課の皆様のご指導や地域住民の方々、工事関係者の皆様のご協力のおかげであると感謝申し上げます。

本工事は平成30年8月の大雨で七尾市街地と能登島をつなぐ重要なアクセス道路が被災し、終日片側交互通行となっておりました。工事箇所は降雨時に雨水が集中する箇所であり、路面水の処理や5月の大型連休までに片側交互通行の解除が早急な課題でありました。

土のうにより被災箇所への雨水・路面水の侵入を防ぎ、センサーポンプを設置し土のうを通過してくる雨水の排水や地中排水ドレーンの設置などにより2次災害に努めました。

重要なアクセス道路となっている為、少しでも早く規制を解除できるよう機械の選定を工夫し、作業の効率化を図り、担当監督員と連携を密にして早期解放を目指しました。

少しでも住民の方にご迷惑が掛からぬよう、鋼矢板圧入作業は夜間通行止により行いました。通行止実施中も七尾鹿島消防本部と連携し、緊急車両がスムーズに通過できるよう連絡を密にとり、万が一に備えました。住民の皆様方のご協力で改めてお礼申し上げます。

これらの取組により、事故もなく工期内に工事を完成することができ、出来ばえ品質共に良い仕上がりになりました。

今後もこの受賞を励みに、更なる技術の向上、日々改善、地域への貢献に努力していきたいと思っております。

令和2年度 農林水産部優良建設工事 知事表彰の紹介

vol.2

施工企業名：株式会社麴香重機建設

■工 事 名 令和元年度 基幹水利施設予防保全
対策事業 森地区 用水路工事

■施 工 場 所 かほく市森 地内

■工 事 概 要

用水路工 L=75.3m

■工 期 令和元年9月20日～令和2年3月19日

■推 薦 理 由

(工事の環境)

本工事は、かほく市森地内において農業用用水管路を布設するもので、JR七尾線の横断工事及び市道白尾53号線（旧国道159号線）での用水管布設工事である。

JR横断部の施工においては、線路下の限られたスペースでの施工が求められ、かつ、JR運行への影響を考慮し安全対策の徹底が必要であった。また、市道部での施工においても通行止め等の交通規制が必要であった。

(工事の難易)

本工事区域は、市道白尾53号線（旧国道159号線）であり地域住民の生活道路として朝夕の利用が多く、地域住民への影響を最小限とするため、適切な工程管理及び交通規制について地域住民への周知徹底を図る必要があった。

また、JR保線区との近接協議により列車通過5分前より作業中断し、安全管理の徹底を図る必要があった。

(出来ばえ)

石川県土木工事施工管理基準よりも厳しい自社管理基準を独自に設けて、出来形管理を行った結果、出来形のばらつきも少なく、出来ばえが良好な施工であった。



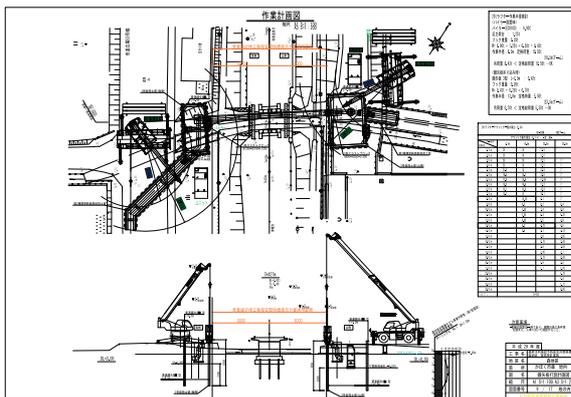
着工前



完成



完成写真



当初作業計画図



旧国道作業状況



JR近接状況



旧国道開放状況



営近進入防止柵

■現場代理人のコメント



現場代理人
中本直輝氏

この度は、栄えある県知事表彰を頂きましたこと、とても栄誉のあることと感動しています。この栄誉は、協力会社の作業員や関係各所担当者の、綿密な協力と対応があつての成果であると実感しており、感謝とともに御礼申し上げます。

工事につきましては、JR横断部は施工発注前からの打合せがしっかりされており、営業線近接作業時の安全対策の打合せとJRに対する規定の手続き程度で工事はスムーズに行えました。ただし、旧国道部の工事使用と配管については、当初発注より2ヶ月間の全日車両通行止めで工事が計画されており、沿道1km圏内の商業施設からは、迂回路案内があつたとしても、営業に支障がでるので対策を考えてほしいと要望がありました。そこで、土留方法の変更、復旧内容の見直し、車道部の分割施工を行う事で平日7日分の昼間車両通行止めのみで施工を行いました。

最後に、発注担当者様はじめ、地元の皆さんの協力のおかげで無事工事が完成できたことを改めて感謝申し上げます。

雇用改善コーナー

石川県立羽咋工業高校生との意見交換会の開催

(一社)石川県建設業協会(会長 平櫻 保)は、(一社)羽咋郡市建設業協会(会長 南 哲郎)、(一社)七尾鹿島建設業協会(会長 田村行利)と合同で、12月4日(金)に石川県立羽咋工業高等学校を訪問し、建設デザイン科1年生20名、建設造形科2年生25名との意見交換会を開催した。

建設産業の若年人材確保を目的とした同校との意見交換会は継続して行われており、今年で8回目の開催となる。今年度は、会員企業の経営者並びに同校を卒業した若手職員らに加え、県協会女性部会より2名の部会員が参加した。

初めに2年生との意見交換会を行い、冒頭、石田 章羽咋郡市建設業協会青年部会長が、「今日は私達に何でも質問して少しでも建設業の楽しさを感じて頂ければ嬉しい。」と挨拶した。続いて、七尾鹿島建設業協会の山崎美智夫氏が、「入社後について」と題し、会社に入社してからのモデルキャリアパスについて紹介した。

その後、生徒が5つのグループに分かれて、会員企業の経営者並びに同校を卒業した若手職員らと意見交換を行い、最後に、参加した生徒一人ひとりが感想を発表した。

引き続き行われた1年生との意見交換会では、建設業で活用されている先端技術に触れることによって建設業への興味を深めてもらうことを目的に、現場でのVRを活用した新人教育の様子を収めたDVDの視聴を行うとともに、実際にVRの操作も体験した。生徒は、初めて触れるVRやドローンに緊張しながらも、担当した若手職員の説明を聞きながら実践していた。

最後に、同校の稲垣 裕校長から、「建設業は大きな建築物を作っているイメージ。これまでは少し大雑把な印象だったが、コロナ対策を含めとても細かい作業をされていることに感心した。」とのお言葉を頂いた。



石川県立小松工業高校生に対する現場監督体験会 並びに企業ガイダンスの開催

(一社)石川県建設業協会(会長 平櫻 保)、(一社)小松能美建設業協会(会長 吉光岳文)、(一社)加賀建設業協会(会長 小中出佳津良)は、12月17日(木)、石川県立小松工業高等学校を訪問し、現場

監督体験会並びに地元建設会社企業ガイダンスを開催した。

この日は、小松能美建設業協会建青会、加賀建設業協会青年部、県協会女性部会員が同校2年生を対象に建設業の仕事や魅力について説明を行った。

生徒は8つのグループに分かれ、企業ガイダンスのコーナーでは、それぞれの企業から企業の歴史や仕事内容、社員の福利厚生などの説明を受け、現場監督体験コーナーでは、実際に建築工事の墨出しや鉄筋探査機の使用を体験した。

参加した生徒からは、「建設業の仕事について理解できた」、「地域に貢献できるよう頑張りたい」などの感想が聞かれた。



金沢市立工業高校生との意見交換会の開催

(一社)石川県建設業協会(会長 平櫻 保)、(一社)金沢建設業協会青年委員会(委員長 梅谷基樹)は、12月18日(金)に金沢市立工業高等学校を訪問し、土木科の2年生40名との意見交換会を開催した。会には県協会女性部会、金沢協会青年委員会のメンバーや会員企業に所属する社員らが参加した。

冒頭、梅谷委員長が「今日は、どんどん質問して就職への不安を取り除き、将来、地元の建設業に入職していただくことを期待しています。」と挨拶した。

続いて、同校の卒業生で株式会社北都組の大宮榛華氏(県協会女性部会員)が「仕事について」と題し、土木の会社に就職した動機、現場監督としての一日のスケジュール、携わった現場等について紹介するとともに、仕事に対するやりがいを語った。

その後生徒らは8つのグループに分かれ、青年委員会のメンバーとグループごとに意見交換を行った。生徒らの質問に対し、コミュニケーションの大切さ、資格の取得、コロナ禍の中でもインフラ等社会基盤の整備は無くなることのない大切な仕事であることなどを懇切丁寧に説明していた。

最後に、各班代表の生徒が、「現場監督になるために必要な資格を知ることができて良かった」など、意見交換会の感想を発表した。



地区協会コーナー

たまにみんなで中能登町へ行こう!!

(一社)七尾鹿島建設業協会

1. はじめに

令和3年を迎え、改めて明けましておめでとうございます。今年もどうかよろしくお願い致します。さて昨年は、県内はもとより日本中がコロナ禍に晒される中で、当協会が例年実施している多くのイベントや行事もことごとく中止となり、この会報に掲載するような題材もなかったのですが、今回は、視点を変えてもう一つの管内である中能登町のいいところを紹介します。中能登町も、七尾市に負けず歴史的遺産が多くあり、今回は、現在知られている歴史的遺産の古墳群について紹介したいと思います。

2. 歴史的な古墳群について

中能登町には、長い歴史の痕跡を感じとることができる有名な古墳群が4つあります。まず、「雨の宮古墳群」です。この古墳群は、眉丈山（標高188m）の山頂を中心に4世紀の後半から5世紀にかけて造られた36基からなる古墳群です。平成4年から発掘調査を実施し、現在、古墳が造られた当時の姿に復元されています。また資料館や芝生広場も整備されています。次に「親王塚古墳」です。崇神天皇の皇子の陵墓と言われ、周囲に濠をめぐらし、頂径20m、底辺67m、高さ14.5mと北陸随一の大きな古墳です。平家物語にも出てくるほど古くから名が知られた古墳です。3番目は、「杉谷チャノバタケ遺跡」です。日本最古のおにぎりが見つかった場所で中能登町の西にそびえる眉丈山麓の尾根上にあります。中能登町は、これにより別名「おにぎりの里」とも言われています。最後に「川田古墳群」です。旧鳥屋町川田地区と七尾市にまたがる古墳群は、古墳時代と言われる5世紀前後を中心に築造されたもので、3つの支群からなり、併せて250基を数える北陸地方でも有数の古墳群です。その周辺に整備された「古墳公園とりや」には、古墳をかたどった休憩棟や古代の砦を連想させる展望台があり、休日には家族連れなどで賑わっています。そのほかに歴史ある曳山をはじめ町内から出土した縄文・弥生式土器や生活文化財の民具、農機具など数多く展示し町の生い立ちがわかる歴史館の「ふるさと創修館」もあり、町民の歴史文化や学習施設として大いに利用されています。このように中能登町には、古墳群や石動山等の歴史的遺産が数多くあります。

終わりに、鹿北（旧中島町、旧田鶴浜町、旧能登島町）を含む七尾市にも歴史的な遺産が多くありますが、中能登町にも今ほど紹介した他に素晴らしい歴史的遺産が数多くありますので、会員の皆様には、是非中能登町を訪れてこの町を大いに満喫して頂ければ幸いです。



雨の宮古墳群



親王塚古墳

会員リレーコーナー

- ⑳ 株式会社澤木組
(所在地：石川県小松市大領中町2丁目177番地)



社章

初春の候、貴社いよいよご清祥のこととお慶び申し上げます。新春を寿ぎ、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

さて弊社は、昭和35年に祖父の澤木俊秋が大工として個人創業致しました。その後、昭和63年に建設業許可を取得し法人化されました。主に小松市にて、公共土木工事を中心に展開して今日に至っております。しかしながら、年々、公共発注工事は減少傾向にあり、社員数も創業当初に比べると減少していますが、少人数での特性を活か

品質・環境方針

品質方針

顧客満足度向上と顧客ニーズに応じた高品質な製品を提供するために、全社員が一丸となり誠意ある行動、業務の効率化、かつ継続的改善を持って、会社の継続的発展と社会貢献をめざし、企業活動を推進します。

環境方針

環境汚染の予防・法令及びその他の同意する要求事項を遵守し、省資源、省エネルギー、産廃物の適正処理に積極的に取り組み、環境マネジメントシステムの継続的な改善活動を推進します。

し、地域に密着した事業を行っています。

当社は、品質向上と環境に配慮した工事施工を目標に、平成13年にISO9001を取得し、平成26年にはISO14001も取得しました。自社に見合った品質方針・環境方針を定め、継続的な改善・向上を図っています。

昨年から新型コロナウイルス感染症による影響もあり、社会情勢や労働環境が一変したことにより、働き方改革、労働生産性向上、ICTの活用といった従来からある課題にコロナ禍といった難題を加え重要課題の解決に向け今一層の改善を継続していききたいと思います。

新型コロナウイルス感染症に関する問題は、今年もまだ続くと思われませんが、これまで築いてきた地域からの信頼と、そして「新生活様式」に沿った事業を継続していききたいと思います。

最後になりますが、私は平成13年に入社し、昨年6月に前社長の会長就任に伴い、代表取締役社長に就任致しました。就任してまだ月日は浅いのですが、地域社会の発展のため、建設業の発展のため微力ながら社員共々一丸になり精進していききたいと思います。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い致します。

今回は株式会社白原組 代表取締役社長 白原 誠さんにバトンをお渡ししますので、よろしくお願い致します。

(株式会社澤木組 代表取締役 澤木啓祐)

今月の「輝き！」さん

No. 70



ほそ川建設株式会社 高尾和希さん

所属：公共・開発工事事務部
 経験年数：12年9月
 年齢：31歳

というテレビ番組です。問題を抱えた古い家を快適な家にリフォームするという内容ですが、創意工夫を凝らした設計により完成した家を見て涙を流して感謝する施主の姿を見て、自分も将来、人に感謝されるような建物を設計したいと思ったからです。平成20年3月に金沢市立工業高校建築科を卒業後、県内の建設会社を経て、平成24年3月にご縁があって今の会社に入社しました。

ー担当している仕事の内容について教えてください。

私は公共・開発工事事務部に所属しており、一般住宅以外の公共建築物等の建築現場を担当しています。これまでに、金沢城玉泉院丸庭園や鼠多門・鼠多門橋の復元工事の現場等を経験しています。

ー入社後9年目になりますが心に残ることはありますか？

入社後初めて現場代理人を務めたのが、金沢城玉泉院丸庭園便所棟の新築工事現場でした。経験が浅いことに加え、金沢城公園という文化財で囲まれた中での仕事ということで大変重圧を感じました。施工の段取りや関係書類の作成をはじめ役所との打ち合わせ等々大変苦労しましたが、協力会社をはじめ多くの方々の協力を頂き完成させることができました。その時の達成感と喜びは今でも忘れません。現場代理人として一回り成長させてもらった現場でした。

ー休日の過ごし方等について教えてください。

生まれて間もない子供がいるので、休日は、子どもの世話や買い物など妻の負担を少しでも軽くしてあげたいと思っています。子供の顔を見ていると日頃の疲れも忘れます。

ー最後に将来の夢、目標は？

当面の目標は、1級建築士の資格を取得することです。少しでも自分のスキルを高め、会社により貢献できればと思います。

金沢市南森本町の現場事務所に、今月の輝きさん高尾和希さんを訪ねました。

ー大きなクレーン車や鉄骨が準備されていますが、どのような現場ですか？

この現場は、こども園の新築工事現場です。4月の開園に向けて工事を進めています。私は現場代理人を務めています。

ーあなたの会社について教えてください。

ほそ川建設株式会社は、金沢市示野町に本社を置き、昭和54年9月に創業、翌55年2月に設立されました。木造注文住宅をはじめ、公共建築物の建築や伝統的建築物の改修工事等を手掛ける社員数、10数名の会社です。関連会社として宅地建物取引業を行う株式会社ドゥハウスがあります。

ー出身地、家族、入社のも機等について教えてください。

私は金沢市出身で、現在、金沢市内の自宅で妻と子供の3人で暮らしています。

私が建築の道に進もうと思ったきっかけは、中学2年生の時に見た「大改造!! 劇的ビフォーアフター」と



けんせつ一番星☆

「-Sunset Express-MOVE」毎月第4火曜日 18:00~18:05

エフエム石川で毎回、建設業界で働く業界のホープ「けんせつ一番星☆」の方にインタビューし建設業界の魅力や仕事への意気込みなどに迫ります。

是非お聞きください。

協会だより

(一社)石川県建設業協会・石川県総合建設業協同組合理事会の開催

(一社)石川県建設業協会・石川県総合建設業協同組合の理事会が、12月22日(火)午後2時から、ホテル日航金沢において開催された。

平櫻 保会長の挨拶に続き、令和2年秋の叙勲で旭日中綬章を受章された北川義信理事・相談役に対し、役員一同から記念品の金杯が贈呈された。

議事では、事務局から、令和2年度事業執行状況、石川県令和2年度12月補正予算、建設業をめぐる最近の話題等5議題について報告がなされ了承された。

引き続き開催された石川県総合建設業協同組合理事会では、事務局から、令和2年度中間事業報告について報告がなされ了承された。



北川義信氏への金杯の贈呈



理事会会場

足立敏之 参議院議員 国政報告会の開催

(一社)石川県建設業協会(会長 平櫻 保)は、12月22日(火)、ホテル日航金沢において、足立敏之参議院議員をお迎えし、国政報告会を開催した。

足立議員からは、「ウィズコロナ時代の国土づくり」と題して、頻発する水害・土砂災害、日本のインフラの現状、これからの公共投資のあり方、建設産業再生に向けての4項目を柱に詳細に説明を頂いた。

足立議員は、「新型コロナウイルス感染症が拡大する中、今年も激甚な風水害に見舞われ、深刻な被害が発生した。改めて日本の脆弱さを痛感させられており、ウィズコロナ時代においても、防災のための様々な施策を促進するとともに、強靱な国土づくりを進める必要がある」と述べられた。

「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」が決着した直後でもあり、出席した役員一同、熱心に聴講していた。



暴力追放功労団体全国表彰の受賞

令和2年度の暴力追放功労団体として、(一社)石川県建設業協会が全国表彰を受賞した。12月18日(金)、坂尻勇一石川県警察本部刑事部長、荻田直樹刑事部組織犯罪対策課長、中島俊明(公財)石川県暴力追放運動推進センター専務理事が当協会を訪れ、坂尻刑事部長から平櫻会長に警察庁長官、全国暴力追放運動推進センター会長連名の表彰状及び記念品が伝達された。

当協会は、昭和60年7月に暴力団等排除推進委員会(現:安全・環境対策特別委員会)を設置し、関係当局との連携の下に業界における暴力団等反社会的勢力排除の活動を推進してきた。今回の受賞を機に、改めて活動の重要性を認識するとともに、協会一丸となって暴力団等反社会的勢力による不正行為や不当介入に毅然として対応し、一切の関係を遮断することを確認した。



荻田組織犯罪対策課長、坂尻刑事部長、平櫻会長、中島専務理事



委員会の開催

土木委員会

◎工事現地検討会班長会議(後期)の開催

土木委員会施工対策部会(部会長 林 登良夫)は、12月8日(火)に金沢市内の会議所において、「工事点検パトロール班長会議(後期)」を開催しました。会議には、正副部会長及び班長とアドバイザーとして土木委員会正副委員長が出席し、各班長から11月6日(金)に行われた工事現地検討会の実施結果について報告がなされた。

会議では、参加者(発注者、受注者、設計コンサルタント、土木委員会委員、地区協会会員)から出された設計施工の問題点や、積算上の課題、仮設計画の考え方、安全管理などについて意見交換がなされ、改善を必要とする案件については発注機関へ要望していくこととした。また、次年度以降の工事現地検討会の実施方法等について意見交換が行われ、散会した。



会議状況

工事現地検討会箇所(県土木部所管工事)

班名	南加賀班	白山・石川班	県央班	中能登班	奥能登班	計
工事箇所	2	2	2	2	2	10

工事現地検討会参加者(人)

発注者	受注者	設計コンサル	県協会	地区協会	計
27	12	14	50	4	107

◎「石川県土木部との意見交換会」の開催

土木委員会（委員長 竹腰勇ノ介）は、12月16日（水）に金沢東急ホテルにおいて、「石川県土木部との意見交換会」を開催した。意見交換会には、石川県より技監の鈴木 穰氏、土木部監理課技術管理室長の木戸口善治氏、担当課長の山口浩幸氏、企画調整室主任技師の若林祐太氏の4名の方々にご出席を頂き、県協会からは鶴山副会長、山岸専務理事、土木委員会からは竹腰委員長をはじめとする42名の委員と事務局1名が出席した。

冒頭に竹腰委員長からの挨拶の後、鈴木技監より「石川県土木部における最近の動向について」と題し、①9月補正予算について、②頻発する集中豪雨に備えた治水対策の強化、③緊急道路の整備促進、④最近の話題（金沢港整備・金沢城整備、新型コロナウイルス感染防止対策、週休2日の取組み、余裕期間制度、ICT施工、担い手確保・育成、道路除雪体制など）についてご講演を頂いた。

意見交換会では、土木委員会より①設計・積算関係（7議題）、②施工関係（3議題）、③工事施工の円滑化4点セット（1議題）、④監督・検査関係（1議題）、⑤自由討議議題（3議題）、⑥その他要望意見（3課題）の18題について、当土木委員会の委員長及び副会長から提案議題の趣旨説明の後、県土木部からの回答を受け、その後に委員と発注者の双方による活発な意見交換が行われ、閉会した。



鈴木技監による講演



意見交換会

建築委員会

◎北陸地方整備局営繕部との建築工事懇談会の開催

建築委員会（委員長 真柄卓司）は、11月27日（金）、ホテル日航金沢で北陸地方整備局営繕部（営繕部長 平田哲人）と建築工事懇談会を開催した。整備局側からは平田営繕部長以下6名、建築委員会からは真柄委員長以下9名の参加で営繕工事における諸問題について意見交換した。

冒頭、平田営繕部長から、「新型コロナウイルスの対応に感謝するとともに働き方改革や生産性向上、適正な工期設定など様々な課題があるが、地方公共団体と連携して適正に取り組んで参りたい。本日は忌憚のない話を聞かせてほしい。」と挨拶があり、引き続き真柄委員長が「地域の生活や産業を支えるために日々業務に推進している。近年は高齢化や入職者の減少に伴う技術の伝承、働き方改革などの問題を抱えているが、継続した公共事業投資が不可欠である。」と挨拶した。

最初に整備局側から①営繕工事における働き方改革の取組について、②官庁営繕事業における生産性向上技術の活用について、③「営繕積算方式」活用マニュアルの改訂について、④営繕工事における情報共有システム（ASP）の活用について情報提供があった。

県協会建築委員会からの、①予算の確保について、②調査基準価格の見直しについて、③入札資格の緩和について、④働き方改革について、⑤週休2日制の普及と工事の平準化について、⑥情報共有化システムについて、⑦建設キャリアアップシステムの運用についてなどを現場の生の声を交えて要望した、これに対し、整備局側から丁寧な回答があった。

発注者側、受注者側の本音の部分をお互いにぶつけ合った有意義な懇談会となり、今後も継続的に開催を続けていくことを確認し、岡副委員長の挨拶で懇談会を閉会した。



土地改良委員会

◎農林総合事務所への施策提案

土地改良委員会（委員長 岡田康晴）は、昨年11月の石川県農林水産部長等への施策提案に引き続き12月8日（火）に臼池秀紀中能登農林総合事務所長、山本藤潤奥能登農林総合事務所長、9日（水）に林 慎吾県央農林総合事務所長、前川久義石川農林総合事務所長、橘 順吉南加賀農林総合事務所長に対し、「農業農村整備事業の推進に関する提案書」を手渡し、意見交換を行った。

岡田委員長の挨拶に続き、提案内容である予算の持続的確保、工事の受注機会の確保、改正品確法に基づく発注者責務の徹底の3項目について説明した後、CSF（豚熱）の対策については、昨年に引き続き農場ごとの防疫対策実施体制を整えていることを報告した。提案内容については、各農林総合事務所長よりコメントを頂き解決に向けての方策等について意見交換を行った。



12/8 中能登農林総合事務所長



12/8 奥能登農林総合事務所長



12/9 県央農林総合事務所長



12/9 石川農林総合事務所長



12/9 南加賀農林総合事務所長

建設青年委員会

◎女性部会 現場見学会の開催

女性部会「百万石小町^{ゆい}『結』」（会長 森高靖子）は、12月3日（木）、金沢市小立野2丁目の新県立図書館建設工事現場の現場見学会を開催した。

初めに、現場事務所で事業、工事の概要説明等が行われ、冒頭、森高会長が、「今日は、女性部会設立後初めての事業であり、会員の皆さんそれぞれの想いで現場を見て頂きたい。」と挨拶した。続いて、矢尾志津江石川県土木部営繕課新図書館班長から、新図書館整備事業の内容、設計コンセプトについて説明を頂き、工事を担当する清水・豊蔵・表・寺井・双建JV 亀井 優現場代理人（清水建設）から、現場の安全対策、難易度の高い鉄骨建方の作業方法等について説明を頂いた。

鉄骨躯体工事が進む現場の見学では、担当者の説明を聞きながら、円形閲覧空間となる場所や200万冊収蔵可能な地下書庫の工事に感心するとともに、各々完成イメージを描いていた。

見学終了後の質疑応答では、会員の「この現場で作業等に従事する女性職員は何人いるのか」、「女性が働きやすい現場にするための対策は」等の質問に対し、現場の担当者からは、女性専用トイレが設置されて



いること等丁寧に回答頂いた。女性部会設置後最初の事業であったが、各地区協会から47名が参加し、日頃見ることが少ない大規模プロジェクトの建設現場を体験するとともに、会員相互の情報交換の場となる大変有意義な現場見学会となった。



担い手確保・育成等特別委員会

◎現場見学会の開催（石川県立羽咋工業高校）

担い手確保・育成等特別委員会（委員長 岡 昌弘）は、12月10日（木）に石川県立羽咋工業高等学校建設造形科2年生40名を対象に、現場見学会を開催した。

最初に北陸新幹線小松駅高架橋他工事の現場を訪れ、工事を施工する（株）奥村組の担当者から工事概要について説明を受けた。その後、高架橋に上がり、実際に新幹線が走行する路盤や建設中の小松駅舎の建築工事を見学した。参加した生徒らは、自身が立っている場所に新幹線が走ることを想像しながら、興奮した様子で担当者の説明に耳を傾けていた。説明を頂いた（株）奥村組の藤本所長は、「土木の工事はひとつとして同じものがなく、常に新しいものを造っており、とてもやりがいがある。皆さんも今後の学生生活で新しいことにどんどん挑戦してほしい。」と生徒にエールを送った。

午後からは、手取川舟場地区工事の現場を訪れ、手取川河道中央付近の固定砂洲を掘削するとともに、掘削土を用いた堤防浸食対策を見学した。生徒は、国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所手取川出張所の奥井所長から、工事内容等について説明を受けた後、現場のICT施工について実際の重機に触れながら学んだ。その後、ICT建機を用いて施工した河川内の盛土部分を歩ながら現場の様子を見学した。



【見学場所】

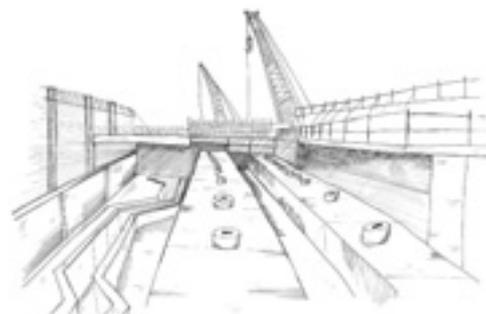
○北陸新幹線小松駅高架橋他工事
（奥村組・加賀建設・江口組JV）

○手取川舟場地区工事
（中島建設（株）、真柄建設（株）、日本海建設（株））

【感想文】

建設造形科建築コース 2年 表 那樹

北陸新幹線の高架橋工事現場の見学で、普段見ることができない場所に行きました。長い年月をかけて一生残る建物を建てるということに関われるということはすごいことだと思いました。一番印象に残ったのは、レールが敷かれる場所です。そこには、新幹線に乗っている人が揺れを感じないようにする様々な工夫がありました。手取川の工事現場では、クレーンやドローンを使って堤防を造っていました。最先端技術を駆使した工事が行われていました。



（デザインコース：生徒作成）

建設造形科建築コース 2年 前田 凛

今回の見学で、住宅などの建設現場ではなく、新幹線の線路の工事やホームの工事等大規模な工事を見学することができ、その現場の迫力や緊張感を体験することができました。とても寒い中、一生懸命に働いている現場の人の姿を見て、尊敬と感謝の気持ちがわきました。とても貴重な経験をさせていただいたので、これから、建築業について勉強していきたいと思いました。

**建設造形科建築コース 2年 戸潤 悠希**

北陸新幹線の高架橋の工事現場を見学させていただきました。その場所は住宅が近くにあり、隣にはJR北陸線の線路があるので、電車が通るときはクレーンを止めるなどといった注意が必要だと聞きました。いろいろな条件がある中で、指示された建築物を造る能力がすごいと思いました。今回の現場見学を通して周りの環境に併せて工事を進めていくことが大切だと改めて感じました。また、周りだけでなく自分たちの安全にも配慮が必要だということも分かりました。

建設造形科建築コース 2年 小山ともみ

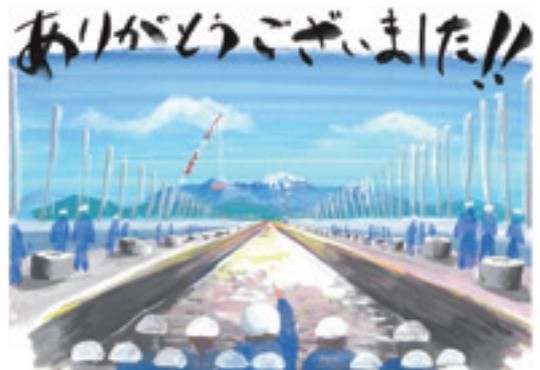
私が今回の現場見学に参加して一番印象に残ったのは、高架橋の上を歩いたことです。のちに新幹線のレールが敷かれる場所です。説明のなかで、「建物の造りは同じでも、同じ形のものはない。」という言葉が聞きました。高架橋のような大規模な建築物を造るときも、何種類かの構造を利用していることを知りました。今回、大規模な現場を二か所も見学できて良かったです。私も将来、大きな現場で活躍したいと思いました。

建設造形科建築コース 2年 寺井 惇

今回の現場見学をして良かったと思いました。何故なら、いつもは絶対見ることができない場所を見ることができたからです。新幹線の線路ができる前の場所です。私は電車通学なので馴染みがありました。いつも何気なく走っている電車の線路の下がこうなっているのかと驚くとともに感心しました。手取川の工事現場では、建設重機の進化を教えてくださいました。新しい知識がいっぱい入ってきて混乱しましたが、実りある素晴らしい体験でした。

建設造形科建築コース 2年 曾山 和

人生で一回も見ることができるかできないかくらいの貴重な新幹線高架橋に上り、レールを敷く前の状態を間近に見られたことに感動し、高架橋の構造が一つ一つ違うことに驚きました。設計図が完成するのに4年もかかっていることにも驚きました。橋などにあまり興味がなかったけど、これを機に興味を持つようになりました。手取川の現場では、バックホウなどの重機にICTによるアシスト機能等が搭載されており仕事がやりやすくなったことを聞き、自分も将来、重機の運転資格を取りたいと思いました。



(デザインコース：生徒作成)

建設造形科土木コース 2年 藤井 大空

今回の現場見学で、改めて土木・建築業のすごさを感じました。小松駅高架橋他工事の現場では、高架橋や小松駅の施工現場を見て、様々なところでいろいろな工夫がされていてとても勉強になりました。手取川の現場では、最新式の重機について詳しく説明をしていただき、とても素晴らしいと思いました。ICT施工で作業効率と品質が向上していると聞いてすごいと思いました。

建設造形科土木コース 2年 野口 留奈

北陸新幹線の高架橋と手取川の工事現場を見学しました。新幹線のレールを敷く前の高架橋を小松駅近くまで歩きながら説明を受けました。高架橋は思ったより広く感じました。手取川の現場では、ICT建設機械での掘削やドローンを使った測量が行われていました。昔よりも精度が上がっていたり人がいなくても工事ができたりすることが分かりました。学校の実習では習うことができないことの話も聞けたので、楽しく良い経験ができました。

建設造形科土木コース 2年 本多 莉緒

北陸新幹線小松駅高架橋の工事現場を見学しました。インターンシップで手取川高架橋の工事現場を見学させて頂いたことがあり、共通点や異なる点も見つけることができました。小松駅高架橋の工事は、市街地で行われるため、周りの住宅や隣を走る電車に配慮することが大切だと分かりました。手取川の築堤・護岸工事現場では、工事の必要性が分かったし、ICT重機の説明や実際に乗って見たことが良かったです。これからの自分の進路に役立てたいと思いました。

**建設造形科土木コース 2年 池田 盛隆**

小松市の北陸新幹線小松駅高架橋他工事の現場を見学しました。使用している杭の違いやラーメン高架橋などについて分かりやすく説明して頂きました。初めて近くで見た高架橋は、思っていたより長く迫力がありました。施工するうえで網を使って物が落ちないように安全に施工していることも分かりました。手取川の現場では、ICT重機が使われており、衛星を利用して位置情報を得て、三次元設計データで誤差を少なくしていました。今は、ドローンで広い範囲をすぐに測量できることも分かりました。将来土木に関する仕事に就きたいと思いました。



(デザインコース：生徒作成)

建設造形科土木コース 2年 板坂 龍心

北陸新幹線小松駅高架橋他工事の現場を見学しました。一生に一度行けるかどうか分からないのでとてもワクワクしました。現場では授業で習ったことがいっぱいあって、このようなところに使うんだと思いました。建築限界によって条件が変わって構造物の大きさも変わることも初めて知りました。手取川の工事現場では、インターンシップで見たICT重機がありました。ICT重機は誤差が小さく精密な施工ができるのですごくいいと思いました。

この現場見学でたくさんのことを学ぶことができ、今後の進路に役立ちました。

建築造形科土木コース 2年 川原 結佳

現場見学を終えて一番感じたことは、とても将来に役立つ話を聞くことができたということです。小松市の新幹線の工事現場では、高架橋に上がってみてその迫力に感動するとともに、ここに線路が引かれて沢山の人が利用するのだなあと思いました。手取川の工事現場では、分かりやすく説明をしてくださり、将来就職する私にとって盛土に関する良いお話が聞けました。

建設技術研修所

◎第3回登録解体工事講習会の開催

第3回登録解体工事講習会を、12月15日(火)石川県建設総合センター7階大ホールにおいて開催した。

平成28年6月1日より改正建設業法が施行され、建設業許可の業種区分として「解体工事業」が新設されたことから、以前は「とび・土木工事業」の許可で解体工事を施工していたものが、今後は、原則「解体工事業」の許可を取得した企業が施工することとなる。

改正に伴い、解体工事に係る営業所専任技術者、監理技術者又は主任技術者の資格要件が建設業法施行規則等で定められ、解体工事の営業所専任技術者、監理技術者又は主任技術者となるためには、登録解体工事講習の受講又は解体工事に係る実務経験が必要となることから、一般財団法人全国建設研修センターの協賛で実施している。今回が9回目の開催で60名が受講した。なお、累計では約1,000名が受講している。



石川県土木施工管理技士会だより

第3回役員会の開催

石川県土木施工管理技士会(会長 鶴山庄市)は、令和2年度の第3回役員会を12月21日(月)にKKRホテル金沢で開催した。

会議は、下記の議事内容について審議・確認・説明を行った。
<審議事項>

- 全国土木施工管理技士会連合会表彰推薦について
 - ・表彰規程に基づき、表彰該当者の中から石川県土木施工管理技士会の推薦者の決定を行った。
- 北陸地方整備局と三県技士会との意見交換会提案議題について
 - ・令和3年3月2日(火)開催の北陸地方整備局と北陸三県技士会(石川・富山・新潟)との意見交換会の提案議題について審議を行った。意見を集約し、再度、正副会長会議にて提案議題を審議する事とした。
- 令和2年度実施報告及び今後の事業計画について
 - ・事業活動状況(中間)及び今後の事業予定について内容を確認した。
 - ・決算報告(中間)について、収入及び支出内容の確認を行い、適正であることを確認した。
- 情報提供
 - ・令和2年7月豪雨による災害に係る支援として、(一社)全国土木施工管理技士会連合会を通して、熊本県土木施工管理技士会に寄付した事を報告した。



国土交通省、建設産業人材確保・育成推進協議会 主催

令和2年度 「私たちの主張」応募作品の紹介

「建設業の未来について」

株式会社高田組 南 龍斗

私は、高校を卒業して建設業の現場監督という職業に就きました。なぜこの仕事に就こうと思ったのかというと、高校では工業高校の建築科で勉強に励んでいたこともあり、社会に出ても高校で学んだことを活かしたいと思ったのと、高校の時の先輩が現場監督は面白いと誘ってくれたからです。

私の初めての現場は鉄骨工場の増築工事でした。私が現場に出るころには基礎が打ち終わり足場の組立作業が行われていました。現場に出て最初に上司に指示された仕事は足場組立の監督でした。私は最初、「足場の組み立てをしているだけなのに監督をする必要があるのか？」と疑問に思っていました。しかし、段々と見ているうちに職人さんが安全帯をしていなかったり、近くに人が通っているのに作業をしたりなど、作業している人が気づかないような危険が見えてきて監督の大切さに気付かされました。

現場を経験していく中でとても大変だなと思ったことは、まずやらなければならないことがたくさんあるということでした。職人さんが来る前に現場事務所の鍵を開け、大勢の業者さんの前でその日の作業内容の確認や作業を行うにあたって注意しなければならないことなどを朝礼で言わなければなりません。朝礼が終わり、現場作業が始まるとレベルで高さを見てあげたり、トランシットで通りを確認したり、写真を撮ったりしなければなりません。また、職人さんが間違っ

とをしないか、危険な作業をしないかなど監督をしなければなりません。私の上司の監督所長さんになると現場をひと周りしに行っただけなのに、職人さんに「ここはどう仕上げればいい？」など色々な人に聞かれ一時間、二時間作業所に戻れないなんてことがたくさんあります。また私が一番大変だと思ったことは現場作業が終わると写真整理をしたり、図面を書いたり、書類を作ったりしなければならないことです。しかし、いい所もたくさんあると思います。職人さんと話す機会がたくさんあるので仲良くなれたり、覚えなければならないことが多いので物知りにもなれます。また、自分が建てた建物が地図上に残ったりもするのでとてもやりがいがあると思います。

しかし、現状は建設業を離れる若者が多くいたり、人手が足りないをよく聞いたりします。昔の建設業界はきつい、危険、汚いの三Kだったと聞きました。しかし、今は給与がいい、休暇がとれる、希望が持てるの新三Kに変えようと情報通信技術を活用して労働生産性を上げる工夫が、盛土など土木工場の基礎工事現場で始まっていると聞きました。また、国土交通省が主体となり、賃金水準の確保や、建設業界における安定な仕事量の確保、週休二日を取り入れた工事の実施などを行っているとも聞きました。こうした取り組みが建設業の未来を明るくすると私は思うので、どんどん新たな取り組みを実行して、建設業を盛り上げてほしいと思いました。

国土交通省、建設産業人材確保・育成推進協議会 主催

令和2年度 「私たちの主張」応募作品の紹介

「建設業に従事して」

兼六建設株式会社 小林良輔

私が兼六建設に入社し、3年8か月が経ちました。

以前は、医療関係に7年ほど勤め、全くの畑違いのこの業界に従事するきっかけとなったのは、「なにか形に残る仕事がしたい」と思ったからです。医療関係の仕事も決してやりがいを感じられなかった訳ではありませんが、自分の会社での存在意義に疑問を感じることも多くなってきていました。

建設業に従事するにあたり、私の建設業の知識は全くのゼロ。一般の方々がどのようなイメージをお持ちかはわかりませんが、未だに、建設に従事する人は全員金槌で釘を打っていると思っていたほどです。入社して早々、現場を見学し驚いたのは、職種ごとに担当業務が分かれていること。全員金槌で釘を打っているイメージを持っていた私にとってはとても衝撃的でした。兼六建設の現場監督が現場を監督し、各工種の職人さんに段取り、仕事内容を伝え、現場を取り仕切る様子を見ていると、まるでひとつの会社のような大きな組織だと感じました。

私たち兼六建設は、地域のランドマークとなるような多くの建築物に携わってきました。例えば、石川県の名所である金沢城公園の整備工事、石川県総合スポーツセンターや金沢海みらい図書館など数多くあります。兼六建設の企業理念は「歓びの空間を創造し、信頼ある建築物をお客様に提供する」です。お客様に建築物を通して歓び、安心を提供するのは勿論のこと、地域の皆様にも建築

物を通して、歓び、安心をお届けしたいと思っています。

では、どうやって地域の皆様に歓び、安心をお届けするのか。先ほどお話したように建設現場は大きな組織であり、多くの人が従事しています。地震、台風、大雪などの大きな災害が起こった際には、いち早く情報を共有し、マンパワーや建設重機などを使用し復旧にあたること、壊れた建築物を直すお手伝いができることなどがあります。昨今ですと、新型コロナウイルスで濃厚接触という言葉をよく耳にしますが、飛沫が飛ばないようにするアクリル板やパーティションを設置するのも建築工事と言えます。また、建築物を通して、見て楽しんで、使って楽しんで頂く、生活が便利になる、地域が賑やかになるなど、歓び、安心をお届けできます。お客様や地域の皆様にとっての縁の下の力持ちとして建設業に携わって行けたらと思います。そして、建設業に携わることに自信と誇りを持ち、お客様や地域の皆様と共に歩んで行く。そんな営業マンで在りたい、そうあるべきだと思います。弊社会長のメッセージとして、「変化の激しい時代だからこそ、お客様のニーズに誠実に向き合う」という言葉があります。お客様のどんなニーズにもお応えできるよう自分自身を日々成長させ、精進して参ります。

建築とは「夢」と「人生」に寄り添い、叶えることです。お客様や地域の皆様、協力会社の皆様の中で指揮を執り、思いを形にしていくことが私たちの使命です。

業界時報

労働災害発生状況 ～建設業労働災害防止協会～

署別・業種別件数（令和2年分）

令和2年11月末 速報

業種別 署別	土木工事	建築工事	設備工事	計	前年同期	全産業
金沢監督署	① 6	(12) 28	19	① (12) 53	① (18) 57	⑤ 562
小松監督署	10	(4) 11	1	(4) 22	(5) 27	225
七尾監督署	9	(5) 9	① 2	① (5) 20	① (6) 21	③ 112
穴水監督署	4	(1) 3	1	(1) 8	(2) 11	70
計	① 29	(22) 51	① 23	② (22) 103	② (31) 116	⑧ 969
前年同期	② 35	(31) 62	19	② (31) 116		⑤ 922

() 内は木建工事 ○内は死亡者数

令和2年度 建設工事受注高調（元請）

民間

（単位100万円）

	土 木			建 築			計		
	令和2年度	令和元年度	%	令和2年度	令和元年度	%	令和2年度	令和元年度	%
9月分	92	167	55.1%	1,620	3,140	51.6%	1,712	3,307	51.8%
10月分	179	160	111.9%	1,032	4,877	21.2%	1,211	5,037	24.0%
11月分	85	139	61.2%	1,497	1,921	77.9%	1,582	2,060	76.8%
年度累計	1,392	2,207	63.1%	12,017	18,559	64.8%	13,409	20,766	64.6%
30年度累計		2,405	57.9%		18,769	64.0%		21,174	63.3%
29年度累計		3,253	42.8%		21,945	54.8%		25,198	53.2%

官公庁

	土 木			建 築			計		
	令和2年度	令和元年度	%	令和2年度	令和元年度	%	令和2年度	令和元年度	%
9月分	4,661	4,688	99.4%	1,132	564	200.7%	5,793	5,252	110.3%
10月分	4,589	3,722	123.3%	682	399	170.9%	5,271	4,121	127.9%
11月分	2,457	3,538	69.4%	6,665	496	1343.8%	9,122	4,034	226.1%
年度累計	31,838	33,486	95.1%	21,071	10,945	192.5%	52,909	44,431	119.1%
30年度累計		28,955	110.0%		8,389	251.2%		37,344	141.7%
29年度累計		27,331	116.5%		13,643	154.4%		40,974	129.1%

合 計（民間+官公庁）

	令和2年度	令和元年度	%		令和2年度	令和元年度	%
9月分	7,505	8,559	87.7%	年度累計	66,318	65,197	101.7%
10月分	6,482	9,158	70.8%	30年度累計		58,518	113.3%
11月分	10,704	6,094	175.6%	29年度累計		66,172	100.2%

会員の異動

今回届け出があったのは次の2件でした。

○変更

会社名	変更前代表者	変更後代表者	変更年月日
(株)白原組	白原 永健	白原 誠	令和2年12月1日
(株)共和建設	柏野 傳一	若島 聡	令和2年12月21日

なお、変更があった時点で届出頂くようお願い致します。

県協会からのお知らせ

令和3年1月行事予定

- 1月 2日(土) パークアンド・ライド (AM7:30~PM7:00)
(~3日)
- 5日(火) 仕事始め
- 13日(水) 北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会
(金沢河川国道事務所)
- 15日(金) 会報編集委員会
- 18日(月) 広報・研修委員会 全体会議 (ホテル日航金沢)
- 22日(金) 土地改良委員会 第2回技術検討部会
- 25日(月) 事務担当者説明会 (河北郡市土建協同組合)
- 26日(火) 事務担当者説明会 (珠洲建設業協会)
事務担当者説明会 (鳳輪建設業協会)
- 27日(水) 事務担当者説明会 (七尾鹿島建設業協会)
事務担当者説明会 (羽咋郡市建設業協会)
- 28日(木) 石川県土木施工管理技士会 DVDセミナー
事務担当者説明会 (加賀建設業協会)
事務担当者説明会 (小松能美建設業協会)
建災防 安全祈願祭・新年会
(尾山神社・KKRホテル金沢)
- 29日(金) 事務担当者説明会 (白山野々市建設業協会)

令和3年2月以降の行事予定

- 2月 2日(火) 事務局打合せ
- 8日(月) 安全環境対策特別委員会事業継続計画 (BCP)
研修会
北陸建設青年会議所北陸地方整備局長との意見交換会
(新潟 新潟グランドホテル)
- 9日(火) 建退共説明会 (七尾 サンライフプラザ)
正副会長会議 (役員室)
常任理事会
- 15日(月) 全建 総務委員会 (リモート)
情報共有システム講習会 (~16日) (羽咋郡市建設業協会)
- 16日(火) 北陸地方整備局との意見交換会
(ANAクラウンプラザホテル金沢)
- 18日(木) 情報共有システム講習会 (~19日) (七尾鹿島建設業協会)
- 19日(金) 県農林水産部との意見交換会
(金沢ニューグランドホテル)
- 3月 2日(火) 北陸地方整備局と北陸3県土木施工管理技士会との意見交換会
(新潟市)
- 4日(木) 正副会長会議
- 10日(水) 全国建産連 総務委員会
- 12日(金) 産業廃棄物講習会
- 4月 5日(月) 正副会長会議
常任理事会

「協会報」への随筆等投稿 (お願い)

- ①随筆文字数 400字詰め原稿用紙3枚 (1,200字以上)
- ②投稿の期日 毎月25日頃 (翌月号の編集締切り)
- ③協会報の発行 毎月1日発行
(毎月10日前後納入、会員送付)
- ④謝礼 投稿頂いた記事について薄謝贈呈

(注) お問い合わせは、
(一社)石川県建設業協会事務局広報担当
TEL 076-242-1161 (代) 内線40番

地区協会からのお知らせ

(一社)金沢建設業協会

- 《行事予定》
 1月 8日(金) 青年委員会：デザインアワード表彰式
 13日(水) 新年挨拶回り
 15日(金) 青年委員会：情報発信セッション
 19日(火) 青年委員会：幹事会
 27日(水) 常任理事会
 29日(金) 青年委員会：技術防災セッション
 事務担当者説明会

(一社)加賀建設業協会

- 《行事予定》
 1月28日(木) 事務担当者説明会

(一社)小松能美建設業協会

- 《行事予定》
 1月28日(木) 事務担当者説明会

(一社)白山野々市建設業協会

- 《行事予定》
 1月18日(月) 理事会
 19日(火) 新年互礼会
 29日(金) 事務担当者説明会

河北都市土建協同組合

- 《行事予定》
 1月25日(月) 事務担当者説明会

(一社)羽咋都市建設業協会

- 《行事予定》
 1月27日(水) 事務担当者説明会

- 《お知らせ》
 2月 9日(火) 定期健康診断(羽咋市シルバー人材センター)
 下旬 役員会
 3月 4日(木) 監理技術者講習会
 下旬 役員会

(一社)七尾鹿島建設業協会

- 《行事予定》
 1月27日(水) 事務担当者説明会

(一社)鳳輪建設業協会

- 《行事予定》
 1月26日(火) 事務担当者説明会

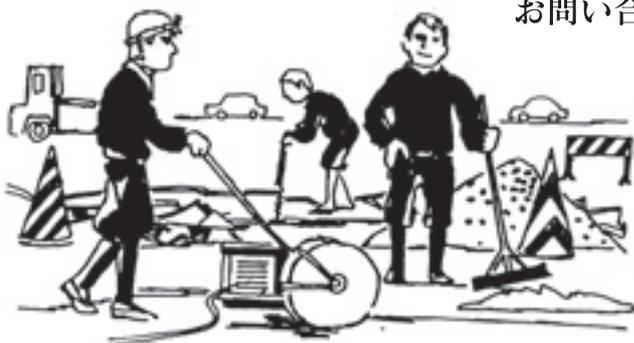
(一社)珠洲建設業協会

- 《行事予定》
 1月26日(火) 事務担当者説明会

不慮の災害事故発生にそなえて

全建協連総合補償制度 自動車保険

お問い合わせは・・・



石川県総合建設業協同組合
 損害保険ジャパン株式会社
 損保ジャパンパートナーズ株式会社
 TEL 076-231-7787
 FAX 076-231-7766
 〒920-0919 金沢市南町5-20
 中屋三井ビル2F

関係機関からのお知らせ

石川県土木部監理課より

石川県建設業 サポートデスクへ お気軽にご相談下さい!!

さまざまなお悩みでお困りの建設業者の皆様へ

経営相談

- 融資制度について知りたい
- 経営状態を把握したい
- 社員の育成について知りたい
- 働き方改革について知りたい
- 経審の制度について知りたい …等

労働環境の改善

- 就業規則、労使協定等を整備したい
- 安全衛生管理体制を見直したい
- 助成金の活用について知りたい …等

元請下請トラブル

- 代金の不払いについて相談したい
- 建設工事紛争審査会について知りたい …等

このようにご相談にワンストップでお応えいたします。

受付

まずは気軽に、お近くのサポートデスクまでどうぞ。
場所・連絡先は裏面をご覧ください。

面談

サポートデスクでご相談をうかがいます。相談内容は外部に漏らしません。Eメールでの相談も可能です。
メールアドレス
kensetsu@pref.ishikawa.lg.jp

対応

ご相談の内容に応じて、各種支援制度をご紹介します。また、中小企業診断士、社会保険労務士などの専門家を派遣し、経営診断、経営計画策定などのアドバイスを行います。

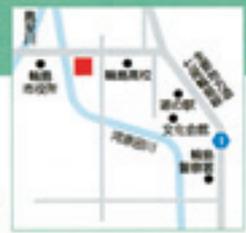
石川県

建設業 サポートデスク 所在地



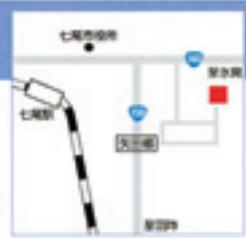
奥能登土木総合事務所 サポートデスク

〒928-0001 輪島市河井町22部1-1
TEL.0768-22-0567
FAX.0768-22-2144
 E-mail : e250115@pref.ishikawa.lg.jp
 (受付・面談時間/平日9:00~17:00)



中能登土木総合事務所 サポートデスク

〒926-8586 七尾市本府中町27番9
TEL.0767-52-5100
FAX.0767-52-5104
 E-mail : e250114@pref.ishikawa.lg.jp
 (受付・面談時間/平日9:00~17:00)



土木部監理課 サポートデスク

〒920-8580 金沢市親月1丁目1番地
TEL.076-225-1712
FAX.076-225-1714
 E-mail : kensetsu@pref.ishikawa.lg.jp
 (受付・面談時間/平日9:00~17:00)



県央土木総合事務所 サポートデスク

〒920-8214 金沢市直江南2丁目1番地
TEL.076-239-3901
FAX.076-239-3701
 E-mail : e250113@pref.ishikawa.lg.jp
 (受付・面談時間/平日9:00~17:00)



石川土木総合事務所 サポートデスク

〒920-2113 白山市八幡町イ20番地
TEL.076-272-1188
FAX.076-272-1870
 E-mail : e250112@pref.ishikawa.lg.jp
 (受付・面談時間/平日9:00~17:00)



南加賀土木総合事務所 サポートデスク

〒923-0811 小松市白江町リ61番地1
TEL.0761-21-3333
FAX.0761-21-7080
 E-mail : e250111@pref.ishikawa.lg.jp
 (受付・面談時間/平日9:00~17:00)



建設業サポートデスク全般に関するお問い合わせ

石川県土木部監理課 建設業振興グループ (行政庁舎15階)

〒920-8580 金沢市親月1丁目1番地
TEL.076-225-1712 FAX.076-225-1714
 E-mail : kensetsu@pref.ishikawa.lg.jp

石川労働局より

最低賃金改正のお知らせ

石川県内の事業所に適用される最低賃金は、次のとおり改正されています。

最低賃金より低い賃金で労働者を使用することはできません。

○地域別最低賃金（県内の全ての労働者に適用されます。）

	時間額	改正発効日
石川県最低賃金	833円	R2.10.7

○特定（産業別）最低賃金

主要な適用業種	時間額	改正発効日
石川県金属素形材製品、ボルト・ナット・リベット・小ねじ・木ねじ等、その他の金属製品、はん用機械器具、生産用機械器具、発電用・送電用・配電用電気機械器具、産業用電気機械器具製造業最低賃金	922円	R3.1.10
石川県自動車・同附属品、自転車・同部分品製造業最低賃金	922円	R3.1.10
石川県電子部品・デバイス・電子回路、民生用電気機械器具、電子応用装置、情報通信機械器具製造業最低賃金	870円	R2.12.31
石川県百貨店、総合スーパー最低賃金	865円	R2.12.31

詳細は石川労働局労働基準部賃金室（TEL 076-265-4425）又は最寄りの労働基準監督署にお尋ねください。

また、石川労働局のホームページ

<https://jsite.mhlw.go.jp/ishikawa-roudoukyoku/>

もご覧ください。

この冬の休暇は、ゆったり、ほっこり、ゆったりと。

～計画的な業務運営や休暇の分散化にも資する

「年次有給休暇の計画的付与制度」の導入を！～

事業主の皆様へ

新型コロナウイルス感染対策として、新しい生活様式が求められる中、新しい働き方・休み方を実践するためには、計画的な業務運営に資する年次有給休暇の計画的付与制度や、労働者の様々な事情に応じた柔軟な働き方・休み方に資する時間単位の年次有給休暇制度の導入が効果的です。また、休暇の分散化が求められているこの冬においては、計画的付与制度は休暇の分散化にもつながります。

詳しくは、石川労働局雇用環境・均等室にお問い合わせください。



お問い合わせ先

石川労働局雇用環境・均等室 TEL 076-265-4429 FAX 076-221-3087

地方共同法人 日本下水道事業団より

入札に参加される予定の事業者様へ

～入札公告情報メール配信サービスを開始します～

このメール配信サービスは、事業団が発注する建設工事に係る入札公告情報を、配信を希望する事業者(会員)にメールにてお知らせするサービスです。配信を希望する事業者の皆様は、事業団ホームページ内「入札・契約情報サイト」より、ご自身で会員登録をすることができます。また、これに係る費用は発生しません。事業団では、より多くの事業者の皆様に入札に参加していただきたいと考えております。是非ともご登録をお願い申し上げます。

▼登録・運用開始日 令和2年7月1日(水)

▼入札・契約情報検索サイト (こちらより登録できます)

<https://www.iswa.go.jp/bid/nyusatsu/control/top.php>

問い合わせ先

事業統括部 事業課 TEL 03-6361-7830